

市場価格

ドル建て ドル/TOZ

Platinum	Price	Date
Open	907.60	2020/10/26
High	907.60	2020/10/26
Low	845.45	2020/10/30
Close	851.50	2020/10/30

円建て 円/グラム

Platinum	Price	Date
Open	3053.00	2020/10/26
High	3053.00	2020/10/26
Low	2839.00	2020/10/30
Close	2863.00	2020/10/30

ドル建て ドル/TOZ

Palladium	Price	Date
Open	2394.00	2020/10/26
High	2397.00	2020/10/26
Low	2184.00	2020/10/30
Close	2214.00	2020/10/30

円建て 円/グラム

Palladium	Price	Date
Open	8058.00	2020/10/26
High	8085.00	2020/10/26
Low	7332.00	2020/10/30
Close	7446.00	2020/10/30

ニュースエクスプレス

パラジウム - ヘレウス社マーケット・スポットライト・レポート

露ノリリスク社の第3四半期のパラジウム生産量は24.3トンで、前期比8%の増加となった。この増産は主にコーラのニッケル精錬所における新たな浸出法によるものだが、今年9月までのパラジウム生産は63.8トン(前年比9%減)。

世界のパラジウムの鉱山供給は11% (24.9トン)減少の予測だが、ノリリスク社の生産量は生産過程の保守点検作業の終了を経て来年は大きく回復する見込み。パラジウム価格は依然として高止まりしているが、南アフリカの生産が増加するにつれ是正されるだろう。

(https://www.heraeus.com/en/hpm/market_reports/weekly_market_reports/market_reports.html)

電気自動車の普及にはまだ長い道のり、プラチナやパラジウムはまだ必要 - CPMグループ

CPM グループのマネージング・パートナー、Jeff Christian氏は、電気自動車(EVs)の人気が高まっているが、マーケットシェアを獲得するまでには予想よりも時間がかかり、触媒としての自動車業界のPGM需要は今後当分の間続くと語る。

同氏によると電気自動車の普及が予想よりも時間がかかる理由は三つあり、それは電気自動車の動力としての電力の不足、さらに十分な電力供給量があっても現状の送電網では一気に大量送電できないこと、そして民間の自動車部品製造会社が自動車業界全体を支えるほどの、電気モーターを含む関連部品を生産する能力もコミットメントもないことによると言う。

さらに同氏は浄化触媒装置には今後パラジウムよりも、プラチナが多く使われるだろうと述べている。

(ソース: <https://www.kitco.com/news/2020-10-25/Don-t-bet-on-rapid-EV-adoption-platinum-palladium-will-still-be-needed-CPM-Group.html>)

水素経済の発展は予想よりもずっと速い - Sibanye-Stillwater

Sibanye-Stillwater社 CEO Neal Froneman 氏はファイナンシャルタイムズ Commodities Mining Summitにて、水素経済は多くの方が予想するよりもかなり速いスピードで進むだろうと語った。

「水素経済は現実のものとなりつつある。我々もそして数多くのアナリストや論評者も燃料電池について、今後の予測の中で具体的に言及し始めている。」

同氏はPGMを触媒とする燃料電池と電解装置は、多く取り上げられる輸送交通だけでなく、水素生産そのもの、エネルギー貯蓄、暖房、冷房、公害の少ない製鉄生産や鉱業を始め様々な産業、商用・家庭用など驚くほど広範囲な適用ができること、水素経済の中でもコスト削減に努力がさかれていること、そして来年の東京オリンピックを始め象徴的でグローバルなイベントで水素の持つ大きな可能性を示す計画が進んでいることなどと述べた。

(<https://www.miningweekly.com/article/hydrogen-fast-tracking-will-be-much-quicker-than-imagined-sibanye-stillwater-2020-10-18>)

Translated by Kazuko Osawa, JBMA

WPIC直近の活動

- 再生可能な資源から生産される水素を使い、エネルギー生産から消費までの全工程がクリーンとされる、プラチナを触媒とする水素プロトン交換膜 (PEM) 燃料電池こそが、「油田から航跡波まで」ゼロエミッションを達成するための手段として有効であると業界は見る。この構想は専門家らの協力によって現実のものとなりつつある。詳しくWPICが10月21日に出しているプラチナ豆知識「油田から航跡波まで」をご覧ください。 <https://platinuminvestment.com/about/60-seconds-in-platinum/2020/10/21>



(@wpicjapan)